

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

「福祉の素晴らしさ」

相模原市立中野小学校

六年 熊澤 歩 未

私は誰に対しても感謝を忘れないことが一番大切だと思う。

私がそれを感じたのはつい最近の事だ。私の祖父は肺が弱く、一年ほど前から咳をするようになった。昨年の秋頃から異変を感じ始めた祖父は病院に通うようになった。最初は胸膜炎と診断された。だが、病院に通う内に祖父は何度か肺炎を起こした。すると、祖父の肺は急に悪化し始めた。7月の中旬のこと。祖父の体調が急変し病院に運ばれた。祖父はそのまま入院することになった。その後医師から自分の余命が少ないことを知らされた祖父は残された余命を家で家族と過ごすことを希望した。その願いを叶えるため、たくさんの人が一丸となって動いてくれた。例えば、病院の医師、看護師、言語聴覚士、退院支援の方、ケアマ

ネージャー、訪問看護、ヘルパー、入浴サービス、高齢者支援センター、移送サービスなどの方々だ。祖父が家に帰ってきてからは毎日のように入れ変わりで色々な福祉サービスなどが来てくれた。そして祖父母の心と体に寄り添ってくれた。その事が嬉しかったようで、私が祖父に会いに行くと、いつもその日に来てくれた方の話をうれしそうにしてくれた。祖母も心細い介護の中、親身になって相談のつてくれてうれいようだった。その後、祖父は亡くなってしまった。結局、2週間程しか家で過ごすことはできなかったけど、その2週間の間で色々な人に支えられ、祖父は幸せな2週間を過ごせたと思う。

最初は知らない人だったのに、一人のためにたくさんの方が関わり、支えてくれる姿を見て、人とのつながりの大切さを教えてもらった。